

感染症発生動向調査

Infectious Diseases Weekly Report

2024年第22週 (5月27日～6月2日)

(国立感染症研究所感染症疫学センター)

●全数報告の感染症 (1～5類感染症)

(今週の報告数/累積。累積は2024年第1週から)

疾患名	報告数	累積
[1類]		
(報告なし)		
[2類]		
結核	267	6226
[3類]		
コレラ		2
細菌性赤痢		21
腸管出血性大腸菌感染症	48	685
腸チフス		15
パラチフス		4
[4類]		
E型肝炎	9	226
A型肝炎	1	69
エキノコックス症		4
エムポックス ¹⁾		14
回帰熱	1	2
Q熱		6
コクシジオイデス症		1
重症熱性血小板減少症候群	5	57
チクングニア熱	1	1
つつが虫病	5	94
デング熱	3	80
日本紅斑熱	13	110
日本脳炎		1
ブルセラ症		1
マラリア	1	14
ライム病	1	3
レジオネラ症	59	716
レプトスピラ症		2
[5類]		
アメーバ赤痢	5	222
ウイルス性肝炎 ²⁾	5	86
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 ³⁾	34	793
急性弛緩性麻痺 ⁴⁾		13
急性脳炎 ⁵⁾	8	255
クリプトスポリジウム症		12
クロイツフェルト・ヤコブ病	2	69
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	28	977
後天性免疫不全症候群	9	394
ジアルジア症	1	18
侵襲性インフルエンザ菌感染症	10	292
侵襲性髄膜炎菌感染症		21
侵襲性肺炎球菌感染症	58	1241
水痘 (入院例に限る)	12	197
梅毒	188	5569
播種性クリプトコックス症	6	94
破傷風	1	29
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1	55
百日咳	33	367
風しん		3
麻疹		24
薬剤耐性アシネトバクター感染症	1	2

1) 2023年5月26日よりサル痘から感染症法上の名称が変更。2) E型肝炎およびA型肝炎を除く。3) 2023年5月26日よりカルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症から感染症法上の名称が変更。4) 急性灰白髄炎を除く。5) ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ペネズエラウマ脳炎およびリフトバレー熱を除く。

●定点把握の5類感染症

(「定点当たり」は報告数/定点医療機関数)

疾患名	報告数	定点当たり
インフルエンザ ⁶⁾	949	0.19
新型コロナウイルス感染症	17401	3.52
RSウイルス感染症	4104	1.31
咽頭結膜熱	2641	0.84
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	15208	4.85
感染性胃腸炎	15056	4.80
水痘	694	0.22
手足口病	9074	2.89
伝染性紅斑	191	0.06
突発性発しん	1076	0.34
ヘルパンギーナ	1376	0.44
流行性耳下腺炎	206	0.07
急性出血性結膜炎	23	0.03
流行性角結膜炎	505	0.73
細菌性髄膜炎 ⁷⁾	13	0.03
無菌性髄膜炎	13	0.03
マイコプラズマ肺炎	112	0.23
クラミジア肺炎 ⁸⁾	1	0.00
感染性胃腸炎 (ロタウイルス) ⁹⁾	16	0.03
インフルエンザ (入院患者)	25	—
新型コロナウイルス感染症 (入院患者)	1260	—

6) 鳥インフルエンザおよび新型インフルエンザ等感染症を除く。7) 髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。8) オウム病を除く。9) 病原体がロタウイルスであるものに限る。

●定点把握の対象となる5類感染症

(前週からの定点当たりの増減と多い地域)

疾患名	増減	地域
インフルエンザ	↓	沖縄、茨城、宮城、島根
新型コロナウイルス感染症	↑	沖縄、鹿児島、北海道
RSウイルス感染症	↓	沖縄、和歌山、山口
咽頭結膜熱	↑	鳥取、岩手、北海道
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↓	鳥取、山形、北海道
感染性胃腸炎	↓	大分、石川、兵庫
手足口病	↑	群馬、福井、鹿児島
伝染性紅斑	↑	東京、岩手、青森
ヘルパンギーナ	↑	高知、群馬、愛媛
流行性耳下腺炎	↓	埼玉、長野、滋賀、大分
マイコプラズマ肺炎	↓	沖縄、香川、大阪

◆デング熱—世界の状況

4月30日現在、WHOには2024年のデング熱症例が760万人以上と報告されており、その内訳は確定症例340万人、重症症例1万6000人以上、死亡者数3000人以上となっている。過去5年間、世界的にデング熱患者の大幅な増加が報告されている。